

たんほほ

NO 1 0 8
H 8 年 6 月 1 日
一 発 行 一
〒 8 6 9 - 1 2
熊 本 県 菊 池 郡
大 津 町 森 5 4 - 2
社 会 福 祉 法 人
三 気 の 会
三 気 の 里
☎ 0 9 6 - 2 9 3 - 8 1 0 0

結婚

理事長 田中 稔

先日、熊本日々新聞に熊本城の樟の若葉の緑が素晴らしいという記事が載っていました。この緑の若葉の季節は若い人達の旅立ち、結婚の季節でもあります。私の周りでも二つの結婚式がありました。

一つは私共の施設職員同士の職場結婚でした。縁があつて結ばれる切っ掛けの場が三気の里であつた事は設立者として嬉しく思いました。

もう一つは私共の職員と他の福祉施設の方との結婚でした。式場での御両人の嬉しそうな、輝いている顔を見ていると結婚式は人生の中で最も大きな華の一つであることがよく実感できます。式でご挨拶をさせていただく事があります。若い二人に申し上げることは多くはありません。結婚はこれから人生という作品を二人で作っ

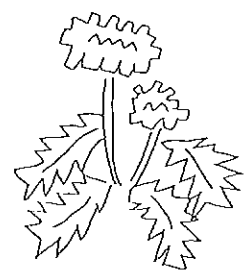
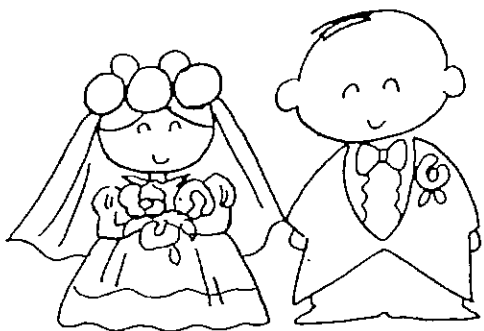
ていく、その出発点です。二人で協力して、というところが大切なところですよ。

福祉施設や病院で仕事をしていますと思いがけない人生を送らざるを得なくなつた人達を大勢見る事になります。そのような状況下でその人が示す行動にその人が歩いて来た人生、価値観、人間観生き様が問われることになりまふ。どのような人生を歩くことになつても自分の人生として受け入れて背負っていくしかありません。

福祉施設で勤務するという事は、そういうことを自分も自分の事として考え、経験するということとです。そういう経験をした者同士の結婚ですから何があつても乗り越えてくれるものと思ひます。式には同僚の職員が呼ばれますがこれらの仲間が工夫をして、盛り上げてくれます。カラオケ一辺倒の式に比べてアイデアとパワー

があります。このようなエネルギーがなくては施設職員は勤まりません。

私は趣味のカメラで式の様子を撮つてアルバムにしてプレゼントすることにしています。この頭腕を上げた専らの評判です。



—のん気 - こん気 - げん気—

▽ゴールデンウィーク、今年も沢山の人が観光地に足を運んだようだ。幹線道路の渋滞をマスコミが連日知らせていた。三気の里の下を通る県道も幹線を迂回する人達で一杯だった。そんな一日、人込みを避けて秘密の廠の里に出かけた。収穫は少量だったが、思う存分初夏の香を満喫することができた。

▽5月病は新人職員と相場は決まっているのに何故かイライラしてしまふ。5月は気候が良いせい、沢山の行事があり打ち合せや企画立案に多忙を極めた。加えて、山や海開きの知らせが届いたり、仙酔峡のミヤマキリシマがの燃え立つ群落のイメージが頭をかすめ、心を動揺させる情報が渦巻いている。ア、自然が呼んでいる。

▽三気の里を取り巻く様相も、春から初夏へと代わりつつある。麦の穂も黄金色に変わり麦秋の時期を迎え、田圃の所々に苗代の準備も進んでいる。蛍の飛び交う便りも届いている。暑い夏がやってきそう。





1 班 - 働くって…楽しい！

パッキン班の前衛は、開園後3年目に作った基礎班。開園当時4つあった作業班の中から、生活面の指導に重点を置く必要があると思われるメンバーが集まった。かと言って、作業はしないということではなく、やっぱりみんなにも作業の時間はやって来た。朝は廊下掃除と洗濯物畳み、午後は草取りと見るからにきつそうな作業。でも、みんなの体力はぐーんとアップし、指示は通り、静かに座れるようになり、「もう作業らしい作業に挑戦してもいいのでは」と始めたのがパッキン作業だった。当時は、みんなのペースに合わせて作業を進め、出来上がったら納品するといったのんびりした作業だったが、あれから6年たった今…、日替わりメニューのような作業に対応できるようになり、工場から納期の指定も受け、うれしいけれどもてんやわんやの毎日である。

そんな忙しい中、私たちのやる気をかき立ててくれる俊ちゃん。開園当時俊ちゃんは洗濯班で、作業といえば洗濯干しと仕分け。俊ちゃんには難しい作業で、洗濯バサミを使えるように教えるのがや…と…、作業意欲を持たせることもできないままだった。そんな俊ちゃんが、今では手もぎやネジセットの作業に取り組んでいる。たまに見たこともないような製品がくると、「教えて」と手を挙げ納得行くまで教わり、できるようになると何とも言えない満足感にあふれた微笑みを見せてくれる。基礎班から脱皮し、働く喜びを感じている微笑みである。 平川

2 班 A - それぞれの成長

月日が流れるのは早いもので、園が開所して9年が経ちました。開所した当初、皆よりも私の方が困惑してしまいコチコチに緊張していたことが思い出されます。

当初の作業と言えば、4班集体の班自体はあったものの実際に行う作業は確立されておらず、午後になるとトランシーバー片手に全員で散歩に出掛けていたのが懐かしく思い出されます。又、園の日課に乗れず、ただただ混乱していた人も(戦いの日々でしたが)今ではすっかり園の生活に慣れ、各班それぞれの特徴に合わせた作業をどんどん取り組み頑張れるようになりました。皆成長したんだなあ～としみじみうれしく思います。

刻々と変化して行く中で、今年度から新たに2班Aが発足しました。ユニークな楽しい人ばかりです。時には色々な失敗があるかも知れませんが1日1日を大切に、小さな喜びを見逃さず喜びを分かち合い、共に生き、共に素敵に年をとって行けたら…と思います。 山中

2 班 B - 前進

いつの間にか「前はもっと…」と言う言葉が私の口からも頻繁に出るようになりました。

学生のころ実習で初めて三気の里に足を踏み入れたとき、言葉には出来ない恐怖感のような困惑を感じたことを思い出します。開所時の一番大変だった時期の事は分かりませんが、2班Bは比較の利用年数の少ない人達が多く、新しい仲間が増える度に職員だけでなく、利用している皆も一緒にしっかりとスクラムを組み、乗り越えて来ました。多少の騒々しさでは作業の手は止めず素知らぬ顔を見せ、外出などの色々な場面で新しい仲間のペースに合わせて待ってくれました。昨年は何かある毎に皆を待たせていた人が今は新しい仲間を待っている姿、入所時の様子がウソのように落ち着いている姿を見ていて、毎日の気に止まらない様な小さな進歩の積み重ねの結果だ！一日一分足りとも無駄には出来ない自分を成め気力を振り絞る毎日です。「日々前進！」そんな言葉がピッタリな2班Bです。 石丸

3 班 - わたしの記憶が確かなら

私の記憶が確かならば・・・最初の頃の木工班は、毎日毎日山に行つて木を切りたおして運んだり、木の皮をむいたりしていました。畑で作物やお花を作ったりすることもありました。（枝豆とひまわりがたくさんできていました。）メンバーは新しく加わる人、違う班になる人とがあり、開所当時から木工班なのは新ちゃん一人だけでしょう。2、4年後から木工班になった人は、田之上指導員、今村指導員、希久ちゃん、誠ちゃん、哲ちゃん、稔くん、憲一くん、一章くん、武ちゃん、順ちゃん、真一郎くん達です。このメンバーは、材木を運ばせたら天下一品、どんな重い物でも力を合わせて運んでくれます。新しいメンバーは、雄ちゃん、修ちゃん、大ちゃん、友ちゃん、泰貴くん、剛くん達です。このメンバーは、小物作りが中心となっているので、力仕事より細かい仕事得意です。私と石井指導員、八木さんは、新入りですが、皆にすっかりなじんでずっと前からいるようです。

これからの木工班は個人個人にあったプログラムで取り組んで行けたらと思っています。 高橋

4 班 - 3つの流れ

今、改めて農耕班の9年間の歩みを紐解いてみると、大きな3つの流れがあったように思います。まず1つ目は、開園当時園生1人1人の適性もよく解らず、今思うと農耕班には不向きだったのでは？と思える人達も含め、ただひたすら勢いのみで前進していたあのころ。夏の炎天下の中で毎日ピニックを落ち着かせるための「寝かせ」をしていたことや、気が付くと一生懸命草をとっているのは職員ばかりで、皆はというと、葉っぱや木切れを口に入れ（異食）ている人、ひたすら常同行動を続けている人、その場（畑）から離脱しようとする人等様々で笑いの絶えない班だったように思います。2つ目の流れは、定員50名のころの満所時で数名のメンバー入れ替えが行われ、皆の農作業に対しての技術もかなりレベルが上がっていたころで、安定期とも言えたころ。野菜類も（自己評価ながら）味、品質共にどこに出してもおかしくない物がきちんと収穫でき、畑が手狭になり借り始めたときで、メンバーによっては、近くの農家へ手伝いに出掛けたり、近くの鶏ふん工場へ乾燥肥料の袋詰めにもしていました。そして3つ目の流れが、定員30名増の80名になってから現在まで。新入園生が増えたと同時に新人職員も入り、園生のレベル維持と平行して新人職員への指導技術の伝達も合わせて行った、とてもバタバタした時期でした。又、よりニーズに応じた細分化された班体制が確立された時でもありました。それから丸2年が経過し、一時落ち着いていた園生のレベルが、以前の状態に徐々に近づきかけてきました。10年目という一つの大きな節目となる今年度の一年、その重要性を再確認しながら、もう一度ふんどしを締め直して頑張る年にしたいと思います。 木下

5 班 - 「かつて...そして今」

三気の里が開所し、初めて作業班が作られた時、まだ「園芸班」は存在してませんでした。その後、年齢に応じた班があっても良いのではないかと、色々な事ができる人達にはそれなりに課題を与えられる班があっても良いのではないかと色々な討議が職員間で繰り返され、その都度作業内容やメンバー構成が変わりながらも、「やってみよう。」という事で「5班」と呼ばれる班が生まれ、胎動期を迎えました。この頃には核になる作業が無く、どちらかと言えばその日暮らした作業が多かった為、職員はそのやりくりで頭の痛い時期でした。その後、園外で一般の人の作業を手伝う事を柱とした「外作業班。」と呼ばれる班が生まれる事でやっと園芸班が芽生えました。この時期の作業はひたすら「頑張るぞ！」とガムシャラに作業をした時期で、肥料蒔きをすれば体じゅう臭うし、夏場の草取りをすれば脱水症状気味になるという状態で、作業後には入所者も職員も口をきく気力がなくなる程のすさまじいものでした。ただ、この時期共に土や汗にまみれながらも頑張り通した一体感は何物にも代えられない財産となり、現在の園芸班の基礎をなしたと考えています。 東

療育雑誌記

僕、病氣

指導員・坂井省英

「坂井さん僕、病氣」と言っ
て駆け寄るT君。病氣にしては、
とてもニコやかで嬉しそうな表情
で病氣には、似つかわしくない。
確かに微熱があるようだ、数日前
から口内炎（カビ）による扁桃腺
炎が流行り、続発かと不安が走っ
た。しかし口の中には口内炎も見
当たらずほっと胸をなで下ろした。

彼の微熱は、風邪によるもの
ようだった。彼にとって微熱は苦
しいものである以上に重要な事な
のである。つまり、病氣は作業を
サボれる免罪符であり、日頃冷た
い職員が一斉にちやほやしてくれ
る印籠とでもいえるもので、絶対
なのである。従って、「坂井さん、
病院に行こう」は、まさにスキー
に連れて行ってというノリなので
ある。

数年前、私が彼の担当職員だっ
という事が、私を名指をする理由
なのですが、それは私と彼の約
束事でもありません。

その頃の彼は、とても頑固でア
マノジャク、素直に自分の気持

を表現できず、自己主張といつた
ら悪戯ばかりが目立っていました。
生い立ちを聞いてみると、発作の
為に、楽しい経験は、大半制限を
受けていたそうです。欲求を満た
す術も無く、次第に頑固な性格が
形成されたように思いました。

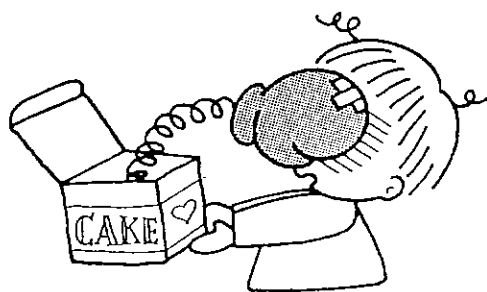
私が尋ねても、何がしたいと云
う事がはっきり表現できず、また
私も理解出来ず、よく二人で喧嘩
をしていました。まさに、兄弟喧
嘩のようだったと、他の職員に云
われていました。

悩んだ末、彼に自分の小遣いで
の買物を提案しました。2人で週
1回のペースで好きな本やおもちゃ
を買いに出かけました。どんなも
のを買っても文句は云わずただ、
自分の小遣いの範囲以内を制限と
しました。時々小遣い以上の物を
要求しましたが、私も頑固に譲ら
ず、次第に買えるかどうかを尋ね
てくれるようになりました。時々、
こんな物と思う事もありました
が、小さい頃欲しかった物がまる
で頑固にこびり付いているような
感じでした。彼の趣味なのだから
と私自信に言い聞かせて付きあい
ました。未だに不思議な趣味です
が、無茶苦茶な要求は減ったよう

に思いません。

担当が代わった今では、思いだ
したように買物に誘われても、現
担当職員にパトンタツチ。私は、
ただのうるさい人になってしま
いました。

「坂井さん」と呼び止められ
て、無愛想な返事ばかりの私です
が、実はとてもお気に入りなん
です。



食食堂営業中

厨房で調理をしていると、お手
伝いをしてくれる園生がたくさん
います。今回は真一郎くんの活躍
ぶりを紹介します。

食後に当番でもない真一郎君は
食堂のはし立てを集めたり、イス
を片付けたり、台拭き等をしてし
てくれています。先日は、「残飯
入れのバケツをとって」と頼むと
サッと取ってくれました。毎日毎
日とても助かっています。

真一郎くんいつもありがとう。
これからもよろしくね。 前田

栄養の話

今が旬のグリーンピースには、良
質のタンパク質と糖質、その他日
常の食事でもどうしても不足しやす
いビタミンB₁、B₂、Cを多く含ん
だ栄養的には大変優れた野菜です。

それに加え、植物繊維の多さは
群を抜いています。女性に多い便
秘も、薬などに頼らずに積極的に
野菜から植物繊維を取れば腸の蠕
動運動を高められ、便秘も自然と
解消されるという訳です。グリーン
ピースをたっぷり使ったピースご
飯など今晚いかがですか？ 村上

我が家のゴールデンウィーク

荒川 信子

連休初日の夕食、静ちゃんの希望に依って焼肉、食欲旺盛で圧倒される。後で心配の感あり。雀の鳴き声チュンチュンで、ガバッと起き上がり、「もう朝?」「そうだよ」と答えると、皆眠たいが、皆の布団を片付けて行く。静ちゃんの一日の始まりである。サツサと朝食を済ませ、森林浴と出掛けたいのは良いが、古屋敷と五木線の山道を作る。平地は春というより初夏の感じがするが、この山道には山桜が我が世のとはかりに咲き誇り、心を洗われる思いである。

途中、静ちゃん腹減った。と言うことで五木(子守歌の里)のひなびた食堂であったが、山菜手打ちそばを注文。竹の子と椎茸の香りがする山盛りのおつぷつのそばに静ちゃんも喜んで食べる。

3日目、イチゴ狩りの予定だったが、雨のため中止。スーパーに買い物に行ったりして、あつと言間の我が家のゴールデンウィークであったが、何の事故も無かつた事が何よりである。



ゆうあいピック熊本県大会

満原 千保



5月10日(金)、水前寺陸上競技場にてゆうあいピック熊本県大会が開催されました。天候に恵まれ、三気の里からは富田さん、元田君(フライングディスク)、佐々木君(50歳走)、松村君(千五百歳走)、佐藤隆博君(ソフトボール投げ)、坂本さん、伊石さん(50歳走)の代表7名がそれぞれ出場し上位を競いました。結果、元田君が4位に入る健闘をみせ大活躍でした。残る6名は惜しくも上位に入ることは出来なかったものの闘争心を持って積極的に参加してくれました。来年は上位に入賞出来ることを期待します。

最後に出場選手、大会役員、引率職員の方々、大変お疲れ様でした。

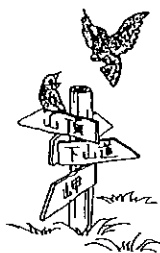
登山

緒方 真紀

5月17日(金) 大津にある弥護山自然公園に登山に行きました。A・B・C・D・Eグループに別れ、それぞれの目標地点まで登りました。今回私はAグループ(鞍岳山頂)に入りましたが、険しい山道を園生と共に登り、時には引張ったり、引張られたりしながら登りました。途中に、休憩をいれ約1時間半ぐらいかけて、頂上へと登ることができました。頂上へ着いたときには、「きつかったー」の言葉よりも、頂上から見える風景を見て「すごい」と「涼しい」の言葉が思わず出てしまいました。(私だけかな)園生も頂上でゆつくりと風に当たりながら風景を眺めていました。

一度頂上まで登ってみられてはいかがですか?とても気持ちいいですよ(笑)

園生の皆さん、職員の方もお疲れさまでした。



事務室の窓より

木下 麻紀



五月晴れの今日この頃、考えて見れば、私が三気の里と出会って早十回目の五月を迎えたことになり。さあ何から語ればよいのかと思いついてしまった。

昭和62年5月に初めて我が子を託して涙ながらに帰られたお母さん方と、玄関をくぐらない園生をじっと待つ職員を思い出した。試行錯誤の毎日。だけどのびのびと元気に根気強く指導し、生活を共にする中、日毎たくましく成長していった園生諸君。

あれから毎年同じ季節がめぐって来るが、私の窓から見える風景は繰り返されて行く。何年経っても皆んなが、明るく元気に過ごすことができる場であればと願いながら、今日も窓の外で汗を流す姿を眺めています。

6月の行事予定

月	火	水	木	金	土	日	備考
					1 福永さんの誕生日(30)	2	
						輝き大会 友ちゃんの誕生日(20)	
3	4	5	6	7	8	9	
10 友ちゃんの誕生日(22)	11	12	13	14	15 員 保護会	16	
17	18	19	20	21 たんぽぽ園集日	22 員 岸谷バ	23 葵貴くんの誕生日(20)	
24	25	26	27	28	29	30	



ボランティア通信

日々日差しが強くなり、夏を思わせる今日この頃。三気の里の温室は30度を越えているとかで、「暑か！暑か！」の言葉が飛び交うようになりました。皆さんお元気ですか？

来る6月9日(日)西合志中学校のグラウンドで輝き大会(阿蘇・菊池地区の運動会)が行われます。三気の里のみんなも徒競走・障害物競走・大王転がし等に参加しますので、お手伝いをして下さる方を募集しています。時間のある方、興味のある方はボランティア担当の瀧原・佐藤・石丸までご連絡ください。

- ☆ボランティアありがとう
- ☆ブラッシング指導 森隆子
- ☆散髪 坂本シマ子・清田純一
- ☆生け花 西村栄子
- 松尾博美・泉美智代



さよなら才畑くん

平成6年11月の入園以来、農耕班のメンバーとして頑張ってくれていた才畑くんが5月末日をもって退所されることになりました。とても残念ですが新天地でもいつものマーちゃんスマイルを振りまいて頑張ってください。木下



編集後記

春も過ぎて、今から梅雨の時季に入ろうとしています。

じめじめした日が、今年も来ると考えると「ぞくぞく」としてきます。現在私は自動車学校に通っています。一度雨の日の運転教習の経験がありますが、やはり晴れの日に比べると視界も悪くブレーキのききも遅れるようです。

雨が降る日には、事故等が多くなるので、車に乗る時は普段の日以上に、皆さん安全運転を心がけてください。ちなみに今、私は...

緒方